ITRON Newsletter No.16

(社) トロン協会 ITRON 専門委員会
〒 108 東京都港区三田 1 丁目 3 番 3 9 号　勝田ビル 5 階
TEL: (03) 3454-3191　　FAX: (03) 3454-3224

μITRON3.0 仕様書 (英語版) バージョンアップのお知らせ

μITRON3.0 仕様書 (英語版) を、日本語版にあわせて Ver 3.02.00 にバージョンアップしました。以前のバージョンと同様に、オンラインでの配布を行います。

仕様書の配布は、インターネット上で tron.is.s.u-tokyo.ac.jp (IP アドレス: 133.11.11.12) から、anonymous ftp を使って行っています。仕様書のファイルが置かれているディレクトリは、"/pub/TRON/ITRON/SPEC" です。anonymous ftp の方法については、以下を参照して下さい。

また、要望があれば、同じファイルをフロッピーディスクで配布することも検討します。詳しくは、ITRON 専門委員会までお問い合わせください。なお、日本語版の仕様書については、一般書籍として発行されているため、オンラインで配布を行う予定はありません。

参考: anonymous ftp の使い方

インターネットに接続されたマシンから ftp コマンド (ないしは同じ機能を持つ他のコマンド) を利用するか、インターネットに接続されたパソコン通信サービスの ftp メニューを利用します。WWW (World Wide Web) が利用できる環境であれば、"http://tron.is.s.u-tokyo.ac.jp/TRON/ITRON/eng-spec.html" で、仕様書をダウンロードするためのページにアクセスできます。以下では、標準的な UNIX の ftp コマンドを例にとって、anonymous ftp の使い方を説明します。

まず、次のコマンドを入力します。

```
% ftp tron.is.s.u-tokyo.ac.jp
```

unknown host (ないしは、それと同じ意味) のエラーメッセージがでる場合は、`tron.is.s.u-tokyo.ac.jp` にかえて `133.11.11.12` を用いて下さい。

接続に成功すると、次のメッセージが表示されます。

```
Connected to tron.is.s.u-tokyo.ac.jp.
220 tron FTP server (Version ....
Name (tron.is.s.u-tokyo.ac.jp:xxxx):
```

以下、`Name:` に対して "anonymous"、`Password:` に対してあなたの電子メイルアドレスを入力して下さい。`ftp>` のプロンプトが出たら、

```
ftp> cd /pub/TRON/ITRON/SPEC
ftp> dir
```

で、取得することのできるファイル名の一覧が表示されます。また、

```
ftp> get <ファイル名>
```

で、指定したファイルを受けとることができます。ftp の詳しい使い方は、お使いのマシンまたはパソコン通信サービスのマニュアルを参照下さい。

ITRON 関連書籍の一覧

1995 年 8 月 1 日時点で、ITRON 専門委員会が編集し、発行されている ITRON 関連の書籍は別表の通りです。ITRON・μITRON 標準ハンドブックは、μITRON (Ver 2.0) と ITRON2 の仕様書を 1 冊にまとめたものです。ご希望の方は、各発売元にお問い合わせ下さい。

μITRON3.0 仕様の最新バージョンは、Ver 3.02.00 です。μITRON3.0 標準ハンドブック (Ver 3.00.00) からの改訂点は、ITRON ニュースレター No.5 および No.11、または ITRON 標準ガイドブック 2 に掲載されています。

ITRON 標準ガイドブック 2 は、μITRON3.0 仕様をメインのターゲットとして作成されています。ITRON 標準ガイドブック'92–'93 は、タイトルの 1992 〜 93 年という期間を過ぎていますが、μITRON 仕様 (Ver 2.0) や ITRON2 仕様を使われている場合には、現在でも有効に活用できます。

ITRON オープンセミナー報告

さる 7 月 20 日に、ITRON オープンセミナーを開催しました。このセミナーは、ITRON 仕様に関する最新の成果や ITRON の実装、ITRON に関する開発環境の状況などを紹介するために毎年 1 回開催しているもので、今回で 5 回目の開催になります。

今回のセミナーは、「充実する ITRON のサポートウエア」と題し、下記のプログラムの通り、μITRON 応用プログラムの互換性チェックシートについての発表を行うとともに、ITRON をサポートする開発環境およびミドルウェアの紹介、応用事例と研究動向の紹

† このニュースレターは、TRONWARE vol.35 および TRON PROJECT BIMONTHLY No.40 に掲載されたものです。

ITRON 関連書籍一覧

書籍名	分類	価格	発売元	発行年	ISBN 番号
ITRON・μITRON 標準ハンドブック	和文仕様書	4,800 円	パーソナルメディア	1990	ISBN4-89362-079-7
μITRON3.0 標準ハンドブック	和文仕様書	4,000 円	パーソナルメディア	1993	ISBN4-89362-106-8
ITRON/FILE 標準ハンドブック	和文仕様書	3,000 円	パーソナルメディア	1992	ISBN4-89362-092-4
ITRON 標準ガイドブック'92–'93	和文参考書	3,500 円	パーソナルメディア	1992	ISBN4-89362-197-6
ITRON 標準ガイドブック 2	和文参考書	3,500 円	パーソナルメディア	1994	ISBN4-89362-133-5
μITRON Specification Ver 2.01.00.00	英文仕様書	12,000 円	トロン協会	1989	–
ITRON2 Specification Ver 2.02.00.10	英文仕様書	15,000 円	トロン協会	1990	–
μITRON3.0 Specification Ver 3.02.00	英文仕様書	–	トロン協会	1995	–

※ 価格には消費税を含みません。
※ トロン協会発売の書籍には、トロン協会会員向け価格が設定されています。
※ 英文仕様書については、インターネット上で、tron.is.s.u-tokyo.ac.jp [133.11.11.12] の /pub/TRON/ITRON/SPEC から anonymous ftp で取得できます。

介を行いました。その中で、リアルタイムシステム用の CASE ツールである CARDtools に関する紹介は、当初の予定になかった米国 CARDtools systems 社 社長 Joseph Rothman 氏による英語での講演となりました。会場の定員ぎりぎりの約 90 名の方の参加を頂き、今回も盛況のうちに終了することができました。

日時:　7 月 20 日 (木) 10:00 〜 17:30
場所:　品川総合区民会館「きゅりあん」
プログラム:

1. ITRON サブプロジェクトの現状
　田丸 喜一郎 ((株) 東芝)
2. μITRON 応用プログラムの互換性
　高田 広章 (東京大学)
　小林 康浩 (富士通 (株))
3. ITRON をサポートする開発環境
「μITRON に対応した、リアルタイムソフトウエア環境について」
　Joseph Rothman (CARDtools systems)
　栗原 朋之 (アンドールシステムサポート (株))
「リアルタイムソフトウエア開発システム RTiplus」
　中本 幸一 (日本電気 (株))
「μITRON 用 TCP/IP ライブラリとファイルシステム」
　加藤 博之 ((株) エーアイコーポレーション)
4. ITRON の応用事例と研究動向
「ITRON 搭載 FA コンピュータ TB-110 の利用形態」
　由良 修二 (日本ミニコンピュータシステムズ (株))
「シリコントロンの実現」
　仲野 巧 (豊田工業高等専門学校)
「坂村研究室での ITRON 仕様に関する研究の紹介」
　高田 広章 (東京大学)
　崎山 伸夫 (東京大学)
5. 特別講演 「ITRON の未来」
　坂村 健 (東京大学)

また、ITRON をサポートする開発環境である CARDtools と RTiplus については、会場にワークステーションを持ち込んでのデモンストレーションも行われ、参加者の注目を集めていました。

セミナー終了後には、参加者間の親睦と情報交換のために懇親会を開催しました。こちらにも、約 40 名の参加を頂きました。

中国における ITRON セミナーの紹介

ITRON ニュースレター No.13　でもお知らせしました通り、ITRON 仕様の海外への広報活動の一環として、中国において　ITRON 仕様に関するセミナーを「日中合同 ITRON 技術交流会」という名称で開催することになりました。日程は、10 月 16 日 (月) に北京で、10 月 18 日 (水) に上海で、同じ内容のセミナーを行います。日本からは、ITRON 専門委員会のメンバを中心に、数名の関係者が出席する予定です。